

ブロッコリー、キャベツ、レタスにおける  
NARO 生育・収量予測ツールを活用した出荷予測システムの改良・実証

1 代表機関・研究代表者

国立研究開発法人 農研機構 野菜花き研究部門 菅原 幸治

2 研究期間：令和5年度～令和7年度（3年間）

3 研究目的

ブロッコリー、キャベツ、レタスにおいて、生産者やJAが各圃場の栽培情報を登録して収穫日・収量を予測できる出荷予測システム（アプリ）を構築し、予測精度を向上させることにより、収量、収益の改善を図る。

4 研究内容及び実施体制

① キャベツ生育出荷予測アプリの開発と現地実証

兵庫県のキャベツにおいて、WAGRI 生育予測 API に対応した生育出荷予測アプリを開発し、複数品種・地域対応の実証試験を行う。

（兵庫県立農林水産技術総合センター、神戸大学、神戸デジタル・ラボ）

② ブロッコリー、キャベツ、レタス精密出荷予測システムの改良と現地実証

島根県と熊本県のブロッコリー、キャベツ、レタスで、WAGRI 生育予測 API 対応の精密出荷予測システムを改良し、実証試験を行う。

（島根県農業技術センター、熊本県農業研究センター、イーサポートリンク）

③ 生育モデルのパラメータ調整アプリの開発

生育モデルの品種・地域対応を効率化するため、WAGRI 生育予測 API におけるパラメータセットを自動調整するアプリを開発する。

（農研機構野菜花き研究部門）

5 最終目標

兵庫県、島根県、熊本県の主要品種に対応した生育予測 API が利用可能な出荷予測システムを実用化する。システムを利用した適期収穫により圃場廃棄を削減し、可販収量10%以上、収益20%以上向上させる。

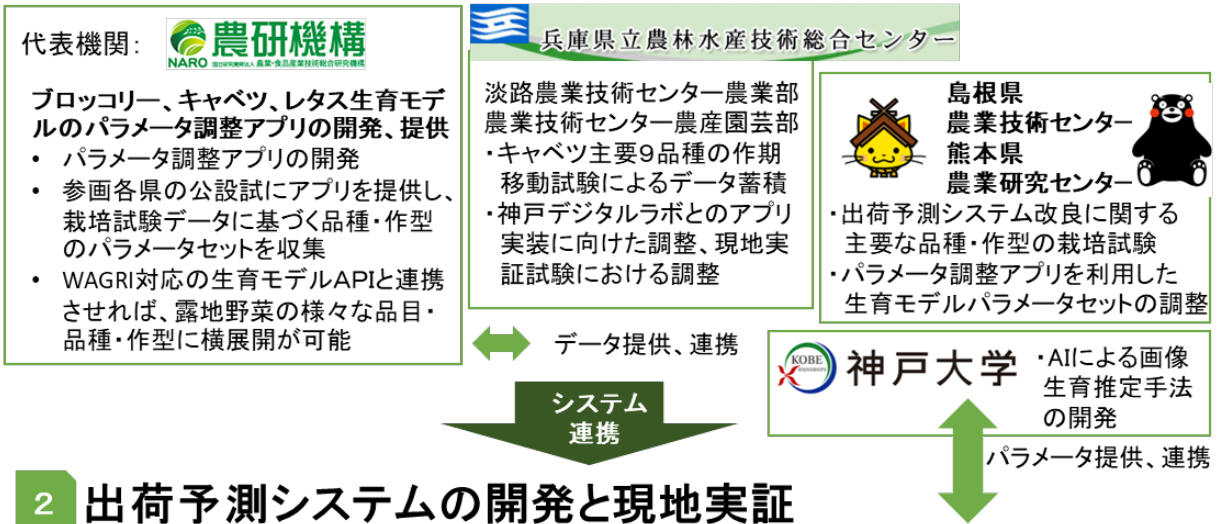
6 期待される効果・貢献

R8 年度までに、兵庫・島根・熊本県内のブロッコリー、キャベツ、レタス主産地の作付面積約3割への普及が見込まれ、事前の在庫把握や出荷量調整による有利販売やこれら露地野菜の安定供給に貢献する。

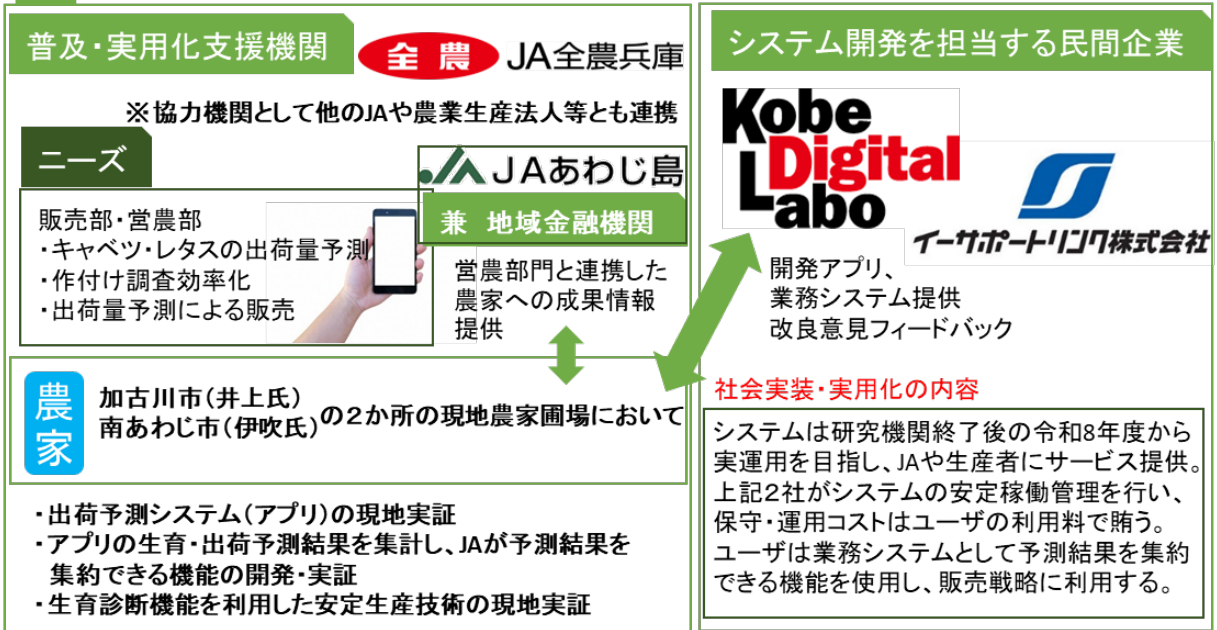
SA1-419H2	ブロッコリー、キャベツ、レタスにおける NARO 生育・収量予測ツールを活用した出荷予測システムの改良・実証
-----------	--

最終目標 ブロッコリー、キャベツ、レタスについて、兵庫県、島根県、熊本県の主要品種に対応した生育予測APIが利用可能な出荷予測システムを実用化する。システムを利用した適期収穫によって圃場廃棄を削減し、可販収量10%以上、収益を20%以上向上させる。

## 1 WAGRI生育予測APIにおける生育モデルの パラメータ調整による複数品種・地域対応



## 2 出荷予測システムの開発と現地実証



### 波及効果1

実需者への出荷予測情報提供による事前出荷調整

### 波及効果2

生育予測・診断による適期収穫・収益向上

### 国民生活への貢献

野菜の中で生産量が多く、加工業務用需要も多いブロッコリー、キャベツ・レタスの安定供給